必ずお読み下さい

取り付け方法/取り扱い説明書

[LT409-Model]

タイヤ空気圧・温度
モニタリングシステム
TPChecker

Wireless Tire Pressure Monitoring System

タイヤ交換及びタイヤローテーション時には必ずお読み下さい

製品を取り付け後も、必ず車両に本書を携帯して下さい

http://www.tp-checker.jp

ＮＯＴＩＣＥ（必ずお読み下さい）

[LT409-Model]

http://www.tp-checker.jp

TPCheckerは車両のタイヤ内空気圧、タイヤ内温度を監視する機能を装備されています。
本システムを導入することによって、リアルタイムで各車輪の空気圧、タイヤ内温度を把握することができます。
本システムは車両走行中に空気圧、タイヤ内温度をドライバーに知らせることで、ドライバーに適正空気圧でのタイヤ管理を促し、燃費の悪化防止や安全走行の促進に繋げます。

■ 製品の適用範囲
TPChecker LT409は、主にハイエースやキャラバン等のライトトラック(4輪車両)向けの製品になります。
本マニュアルは4輪車両をモデルに説明するものとなり、6輪車両の対応製品・マニュアルをお求めの場合は、各代理店又は弊社までご連絡ください。

■ EMC・FCC警告
TPCheckerはUSA FCC法規第15条基準に準じます。

(1)本製品は他の有害電波干渉で正常作動しない場合があります。
(2)不適正な操作により、システムが正しく作動しなくなる可能性があります。

TPCheckerはデジタルClassBの制約に準じ、この制約は干渉電波が住宅地区に発生することを防ぐためのものです。無線RF信号が発信する為、正確に取付・使用しないと、無線通信を妨害する電波が発生する恐れがあります。

※正確に施工しても100%干渉が起きないことを保証するのではありません
※本システム本体に不正改造がある場合、保証は受けられません。

■ 製品の警告表示
本システムはセンサーでタイヤ内部の圧力、温度を感知し、無線信号で送信します。
正常作動中、緑色の数字で空気圧、タイヤ内温度が表示されます。センサーが空気圧・温度の異常を感知すると、異常信号が車内に設置したモニターへ送信され、モニターが「ピ、ピ」の警告音と赤色の数字でドライバーに危険を知らせます。

＜警告＞
本システムは無線方式で交信するため、特殊電波環境下での混信、取り付け不良などにより本システムのが持つ性能を発揮できず、受信不能の原因となります。モニターが20分間断続的にホイールセンサー信号を受信できない状態が続くと、該当タイヤの表記が「E2」と表示されます。
この場合は、車両を現在位置から移動させ、（付近に強い電波干渉の恐れがあるため）、ご購入先にてセンサーの状況等の点検を受けてください（異常警告信号"ワーニング"を高頻度で送信するとセンサー内のバッテリーが通常より早く消耗することがあります）。モニターが20分以上継続的にタイヤから信号を受信できない場合は、モニター上全てのタイヤ数値が「E1」になります。
この場合は車両を現在位置から移動させ（付近に強い電波干渉が発生している恐れがあるため）、ご購入先にて点検を受けてください。

TPCheckerの取り付けは、メーカーの指定を受け製品講習を受講した専門店にて、本取り扱い説明書に記載される取り付け手順に従って作業を行って下さい。
また、上記の指定を受けていない販売店や工場が不適切な取り扱い・分解による製品の損傷は、保証対象外となります。
エア漏れを防ぐため、エアーバルブの定期検査、定期的な交換を強くお勧めします。

ＮＯＴＩＣＥ（必ずお読み下さい）

[LT409-Model]

http://www.tp-checker.jp

TP Checker[LT409]は、ハイエースやキャラバン等のライトトラック用タイヤの性能を最大限発揮させ、管理するためのタイヤ内空気圧・タイヤ内温度をモニタリングするシステムです。商品は、「センサーユニット」「エアバルブ」「受信機能付きモニター」から構成されており、ホイールのエアバルブ部分の内側に取り付けた「センサーユニット」が検出したデータを無線を利用し、「モニター」へ送り表示するシステムです。運転席付近に設置する「モニター」を通じ、タイヤ内空気圧とタイヤ内温度をドライバーにお知らせします。これにより走行前の空気圧点検を大幅に省力化し、走行中でもタイヤが安全に機能しているかどうかを、リアルタイムでドライバーはチェックすることが出来ます。

■ 本書に関するお願い

（１）取り付け作業や製品をご使用前に、本書をよくお読みの上、正しくご使用ください。
　　誤って取り付けをされますと、誤作動や故障の原因となる場合があります。
（２）本書は取り付け終了後も、取り付け車両に携帯し、いつでも見られる場所へ保管してください。
（３）本書を無断で使用・転載することは禁止されています。
（４）本取扱説明書には保証書が添付されています。
　　ご購入の際には必ず保証書にご購入店名、ご購入日の記載を販売店に依頼して下さい。
　　販売店の記入がない保証書は、いかなる場合でも保証の対象とはなりませんので予めご了承下さい。
（５）本書の内容は予告なく変更される場合があります。

■ 本製品に関するご注意。

タイヤ内空気圧と温度をモニタリングするシステムです。タイヤ内空気圧及び温度の状態を保障するものではありません。タイヤ空気圧の管理責任はご使用者自身へ帰せられます。エアゲージ等を使用して定期的に本製品が正しく機能していることを確認して下さい。

本製品は無線電波を利用してデータを送信しております。そのため、タイヤポジションや環境条件、電子機器等の影響により無線電波を受信できなくなる可能性があります。その場合、タイヤ内空気圧と温度がモニターへ正常に表示されない事があります。

本製品の仕様は日本国内向けとなっております。国外では電波法の違いにより使用が認められない場合がありますので、ご注意下さい。

本製品の取り付けは、必ずタイヤの取り付け技術を持った専門店で、取り付け作業を行なって下さい。

<< 警告 >>

TP Checkerはワイヤレスの無線周波数を使用した製品です。
無線電波を使用しているため特殊な環境下（電磁波などが出ている場所）では電波が正しく送られない可能性があります。１５分～２０分たってもモニターが「00」若しくは「---」表示の場合は再度、場所を変えて操作を行って下さい。
長時間、異常な状況下で使用を続けますとセンサー消費電力が増え、通常よりも電池の使用年数が短くなる可能性があります。

■ 製品の免責について

本製品を目的外の使用により、使用者あるいは第三者が被った損害については、当社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。製品や取り付けに付いてご不明な点等ございましたら、弊社若しくはご購入店へお問い合わせ下さい。

走行中に異常振動や異常音など感じたら、直ちに安全な場所に車を停車させた上で、点検を行って下さい。
点検で万が一異常だと思う箇所を発見したり、センサーが脱落・破損をした場合は、お買い求め頂きました販売店、もしくはメーカーにご相談下さい。
ロープロファイルのタイヤ&ホイールを装着のお車は、特に縁石やキャッツアイ等を勢いよく乗り越えますと、センサーを破損する可能性がありますので、十分ご注意下さい。

TPCheckerをお客様自身等による修理・加工は絶対に行わないで下さい。本製品は精密機器であり、製品を分解する事で本来の機能を失い、破損の原因となります。分解や加工がみとめられた製品が原因で起こったトラブル・事故・破損等については、弊社は一切の責任を負いませんので、予めご了承下さい。
急発進・急制動・急旋回等の無理な走行・乱暴な運転はタイヤ&ホイールを傷めるだけでなく、センサーにダメージを与え最悪は脱落する可能性があります。
重大な事故にもなりかねませんので、絶対に行わないで下さい。

■ TPChecker使用上の注意
TPCheckerの取り付けを行う前に、今お使いのタイヤ・ホイールにエア漏れや破損箇所が無い事を確認の上、TPCheckerの取り付けを行って下さい。タイヤ・ホイールが不良で起こった破損・事故等、それに付随しTPCheckerを破損させた場合、弊社は一切の責任を負いかねますので、組込前に必ず各部の点検を行って下さい。
取扱説明書に記載が無い方法等で装着され起こった事故・トラブルについては、当社は一切の責任を負いかねます。
また、本書に無い取付け方法で装着され、発生したトラブル・事故については、弊社一切の責任を負いません。

TPCheckerを装着したにも関わらず、モニターを車内に装着せずに走行し、エア漏れやパンク等で起こったトラブル・事故には、弊社は一切の責任を負いません。TPCheckerの警告アラームが鳴りましたら、速やかに車を安全な場所に停止させ、タイヤに異常が起こっていないかを確認して下さい。

TPCheckerはタイヤ内空気圧・温度をリアルタイムに監視できるシステムですが、センサーの電池切れや電波障害等、様々な要因でタイヤ情報をモニターに伝達できない場合があります。タイヤ空気圧管理は法令でも定められていますように、運転者の義務でもありますので、定期的な点検を必ず行って下さい。
TPCheckerは一般公道用での走行を前提に開発された商品になります。一般公道以外での特殊な条件下で使用し、製品が破損・故障その他要因でのトラブル・事故を起こしても、弊社は一切の責任を負いません。

■ センサー及びモニター取り付け時の諸注意
センサーとバルブを取り付けるスクリューには必ずネジロック剤を塗布し、確実な締め付けトルクで装着を行って下さい。
締め付けトルクが不足すると、センサーが脱落する恐れがあります。
タイヤを交換した際やセンサー本体を交換する際には、必ずバルブとセンサー取り付けスクリューを新品に交換して下さい。
再使用しますとエア漏れやスクリューの緩みが発生し、最悪はセンサーが脱落する恐れがあります。

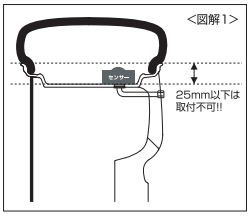
電源コードは通常の使用方法以外で使用する場合、弊社の製品保証対象外になりますので、予めご了承下さい。

TPCheckerを取り付け出来ないホイールとお車

■ ホイール形状をご確認下さい

ホイールのビードストッパー部分の高さが足らないホイール、バルブ取り付け面とビードストッパー部分とのクリアランスが、25mm以下のホイールにはTPCheckerは取り付け出来ません。（図解①参照）

<図解1>



走行中に縁石や段差を越える際に、エアー不足や大きな入力等で起こるタイヤのたわみが要因で、センサーとタイヤ内部が干渉し、取り付け部分に大きなダメージを与える事があり、バルブが緩んだりセンサーが破損する可能性があります。
この状況下で、TPCheckerを使用されますと非常に危険を伴いますので、商品をご購入前、またはお手持ちのホイールをご確認下さい。
弊社が推奨する数値以下でTPCheckerを使用し、センサーを破損やタイヤバースト等で事故に繋がったとしても、弊社は一切の責任を負いかねます。

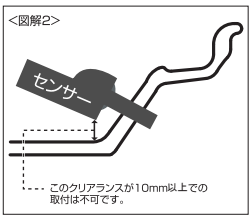
■ 装着するお車の常用空気圧をご確認下さい

自動車は車種や使用用途により、個々に常用空気圧が設定されています。
TPCheckerは空気圧のモニター表示範囲が設定されており（0～800kPa）、この表示範囲を上限下限で超える車両へ装着は出来ません。

■ シガーソケットが車両にあるかをご確認下さい

TPCheckerの電源供給は、車両シガーソケットから行っております。装着されるお車にシガーソケットが装備されているかを必ずご確認下さい。
本書以外の方法で電源ケーブルを加工・改造して製品を取り付けた場合、弊社の製品保証対象外となりますのでご注意下さい。
上記の装着方法が原因で発生した破損や事故については、弊社では一切の責任を負いませんので、予めご了承下さい。

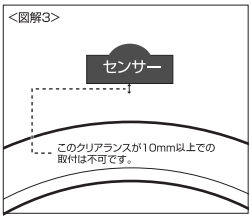
<図解2>



■ エアバルブの形状をご確認下さい

TPCheckerを装着するホイールに、TPCheckerセンサー取り付け専用エアバルブが適合するか否かを、作業前に必ずご確認下さい。
ご不明な場合は、本製品をご購入頂きました販売店にTPCheckerオーダーシートがございます。
こちらにバルブの詳細図がございますので、現在お使いのホイールバルブがどのバルブに該当するかをご確認下さい。

<図解3>



■ ホイールとセンサーのクリアランスにご注意下さい

センサーを取り付けた際に、ホイールとセンサーのクリアランスが10mm以上空くホイールへの取り付けは出来ません
極端にセンサーがホイールから浮く場合など（図解②③参照）センサー部分に過度の負荷が掛かり、破損の原因となりますので、TPCheckerをご購入前に必ずご確認下さい。

■ Transmitter Specifications	
バッテリー寿命（センサー）	一般的な使用頻度で約3～5年間
保管温度	-40℃～125℃
動作温度	-30℃～120℃（動作湿度：MAX95%）
周波数	449.775MHz（特定小電力無線設備認証取得済み）±10kHz
測定空気圧範囲	0～800kPa
測定圧力誤差範囲	±20kPa（±0.1）適正空気圧の場合
測定温度範囲	-40℃～125℃
測定温度誤差範囲	±4℃
センサー監視頻度	3秒（モニター表示は30秒毎に1回）
バッテリー電圧	3.6V/500mA
センサー重量	30g
センサーサイズ	63mm×33.5mm×19mm（バルブ部分は含まれません）

■ Receiver Specifications	
作動電圧	12V DC
作動電流	≦250mA
感度	≦-107dBm
周波数帯	449.775MHz (±100KHz)
保管温度	-40℃～90℃
動作温度	-30℃～120℃（動作湿度：MAX95%）
表示空気圧範囲	0～800kPa
表示温度範囲	-40℃～125℃
低空気圧警告設定範囲	280～380 /（初期設定値280kPa）
高空気圧警告設定範囲	520～720 /（初期設定値520kPa）
温度警告設定範囲	60℃～100℃（初期設定値80℃）

※製品仕様は予告無く変更される場合があります

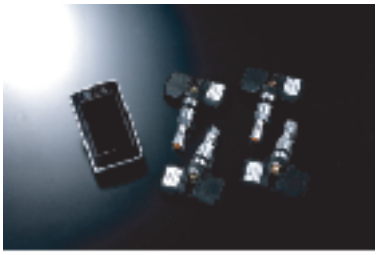
ＮＯＴＩＣＥ（必ずお読み下さい）

[LT409-Model]

http://www.tp-checker.jp

■ TPChecker　システムパッケージリスト

◆ アイテム名	数量
A モニター(無線受信回路内蔵)	1
C 電源ケーブル	1
D センサー	4
E エアーバルブ (tv10)	4
E ベルクロ	2
F 専用スクリュー	5
G システムマニュアル	1



※LT409のキット構成イメージになります
※モニター横使いになります

■ TPChekerの取付方法

以下に、TPChecker LT409モデルを車両に装着する手順を記載しております。
本書の手順通りに正しく取り付け作業を行い、安全に本製品をお使い下さい。

■ 電源ケーブルの配線方法
レッド　VCC
グリーン　ACC
ブラック　ヒューズBOX（アース）

■ モニターと電源ケーブルの取り付け方法

1. モニターを両面テープでドライバーが視認しやすい場所へ取り付けてください。
2. 電源ケーブルのUSB端子をモニターUSBコネクターに差し込みます。
3. モニターと反対側のケーブルをシガーソケット差し込みます。
（この際に車両のソケット電圧がTPCheckerに合うかを必ずご確認下さい）

■ TPChecker取り付け応用編
シガーソケットが無い車両にTPCheckerを装着する場合は、電源ケーブルのシガーソケット部分をカットして、車両に装着する事が出来ます。
以下の手順で正しい加工を行って下さい。
（手順と異なる取り付けは保証対象外となりますのでご注意下さい）

電源ケーブルの赤線を車両側VCCにつなぎ、緑線をACCにつなぎ、黒線をヒューズボックスにつなぎます。（右記図を参照）

※ 右記図の様に配線を行うと、モニターは常にセンサーデータを受信します。
モニターのLEDはACCをオンにすれば電源が入り、オフにすればモニター電源が切れます。
※ モニターとパワーケーブルをつなぐUSBソケット部の改造は絶対に行わないで下さい。（保証の対象外となります）

セットアップが完了しましたら、モニターに貼ってあるプロテクションフィルムを剥がして製品をご使用下さい。

TPCheckerを取り付けする際の注意点①

[LT409-Model]

http://www.tp-checker.jp

■ エアーバルブは必ずTPChecker専用バルブ若しくはオプションバルブをお使い下さい

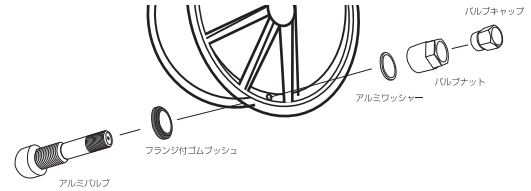
◆ バルブの締め付けについて
センサーをエアーバルブに直接取り付けるため、エアーバルブにセンサーの自重が加算され、走行時に発生する遠心力でエアーバルブに負担が掛かります。
これにより、通常のエアーバルブナットの締め付け時より、多少強めに締め付け作業を行って下さい。
不完全な締め付けは、エアー漏れを発生しますのでご注意下さい。

◆ タイヤ組み込み後の確認について
エアーバルブ及びバルブホールから「エアー漏れが無いか？」を必ず確認して下さい。

※エアーバルブを上下左右に動かしたり、バルブを押し込む等をして、その際にエア漏れが無いか、バルブが確実に取り付けられているかを確認して下さい。

●取付例 **A**　通常は図Aの部品構成にてホイールに取り付けてください。

部品点数５点



●取付例 **B**　バルブホールの位置やリムの形状・厚さ等によりAの取付方法で装着出来ない場合
付属のアルミワッシャーをＢ図の部品構成で、エアーバルブをホイールに取り付けてください。

部品点数６点

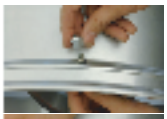
■ パンク修理キットを使用するにあたり
走行中にTPCheckerが空気圧不足を発し、タイヤがパンクしている事が分かった場合に、応急処置としてエアバルブから注入するパンク修理キットを使用するケースが考えられます。
TPCheckerを装着しているホイールに、パンク修理キットを充填すると、センサー及び取り付けビスを破損し、システムが正常に作動しなくなる恐れがあります。（※TPCheckerに限らず、他社製TPMSもパンク修理キットが使用出来ないアイテムが殆どです）

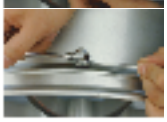
但し、TPCheckerはパンク修理キットを使用した際でも、別売りのリペアパーツにて該当車輪分のパーツをご購入頂けます。
TPCheckerはリペアパーツのラインアップが充実していますので、万が一このような状況下でパーツを破損してしまっても、必要なパーツだけ購入が可能です。
センサー交換後は、モニターに新しいセンサーを認識させる作業が必要です。詳しい作業方法は本書に記載されております「リセット方法」をご参照下さい。

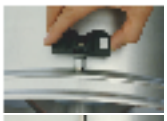
■ TPChekerの取付方法　アルミアタッチメントの取り付け方法（オプションパーツ）

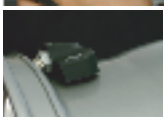
取付作業手順

TPCheckerでは、様々なバルブ形式に対応するために、専用の取り付けキットをご用意しています。
以下の取り付け手順は、6mmエアバルブ及びtv8規格のアルミアタッチメントの取り付け方法になります。
装着にあたり、以下の手順で確実に装着を行って下さい。









◆ 6mm及びtv8バルブの取り付け
通常組み込みと同様に、ホイールへエアバルブを組み込みます。
エアバルブに付属しているダブルナットを一つにして、エアバルブをホイールへ取り付けて下さい。

◆ バルブナットの締め付け
ホイールへ取り付けたエアーバルブへアルミアタッチメントを取り付けます。
この際、エアバルブとアルミアタッチメントの勘合部分へ、必ず緩み止めを塗って下さい。
取り付けが終了しましたら、必ずエアーバルブを上下左右に動かす等して、しっかりと固定されているかを確認して下さい。

※緩み止めを塗らないで装着しますと、スクリューが緩みセンサー脱落の危険性があります。

◆ センサーの取り付け
センサー本体をアルミアタッチメントに付属している専用ビスで取り付けを行います。
この際、取り付けビスに緩み止めを必ず塗布して取り付けを行って下さい。
この作業を怠りますと、センサーが脱落して破損する恐れがあります。

◆ センサーの位置
センサーを取り付け後に、ホイールとセンサーの位置が左図のように10mm以下になるように取り付けを行って下さい。
10mm以上隙間が開いてしまうホイールは、両面テープ等で台座を作り、センサーが宙に浮かないように取り付けを行って下さい。

■ センサーの取付方法

取付作業手順

Step：１　モニターとUSB電源コードを繋ぎ、視認性が良い箇所にモニターを設置する。

Step：２　車両のアクセサリー電源をONにし、USB電源コードをシガーソケットに差し込みます。
アクセサリー電源を入れ続けた状態を、４輪全て取付が終了するまでキープして下さい。

Step：３　センサーをホイールに組み込みます。

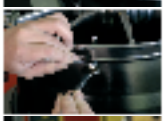
必ずご注意して下さい>＞ センサーナンバーに沿い、１輪づつ車両へ装着を行なって下さい

■ センサーの識別方法

RF-1 右フロントタイヤ 一番最初に車両へ装着します	**RR-2** 右リヤタイヤ ２番目に車両へ装着します
LF-4 左フロントタイヤ ４番目に車両へ装着します	**LR-3** 左リヤタイヤ ３番目に車両へ装着します

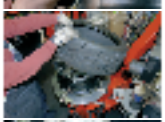
◆ センサーの取付 **（右フロント／ＲＦ－１から取り付け開始）**
RF-1センサー本体をロックボルトとエアバルブで固定します。

※センサーはエアーを感知して電源が入りますので、必ずセンサーナンバー順に組み込み作業を行って下さい

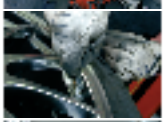


◆ 専用ナットの締付け
TP Checkerを装着する上で重要な取り付け作業が、専用ナットとロックボルトの取り付けです。この工程では、専用ナットで確実にエアバルブをホイールへ固定して下さい。

◆ ロックボルトの締付け
センサーを専用ロックボルトで取り付けます。
締め付けトルクが不足すると、センサーから送られる信号をレシーバーがキャッチしにくくなります。また締め付けが不足すると、内部でセンサーが脱落する恐れがありますので、確実に取り付けて下さい。



◆ タイヤの組込み
タイヤを組み込む際に、タイヤチェンジャー等でセンサー本体を破損しないよう十分注意して作業を行って下さい。



◆ エアーを入れます
タイヤが組みあがりましたらホイールに空気を入れます。（窒素ガスも可）
適正空気圧まで空気を充填して下さい。
この際にエアバルブからエア漏れが無いかを必ず確認して下さい。

◆ ホイールバランスを取ります
TP Checkerはセンサー本体が軽量の為、バランスウエイトを少なく貼る事が出来ます。
次の取り付けて手順で車両への装着方法をご説明します。

Step：４　RF-1センサーを組み込んだタイヤ&ホイールを、車両に取付ます。
この際に、必ずモニターインジケーターの右フロント部分がグリーンの点灯である事と、適正空気圧でタイヤが組み込まれている事を確認の上、右フロントへ装着作業を行なって下さい。

Step：５　センサーナンバー「RR-2→LR-3→LF-4」の順で1本づつ組込を行ないます。
この際、各タイヤに空気を入れた時点で、必ず各タイヤのインジケーター部分がグリーンの点灯である事と、適正空気圧でタイヤが組込されている事を確認して下さい。

■ センサー配置例

RF-1／右フロントタイヤ	RR-2／右リヤタイヤ
LF-4／左フロントタイヤ	LR-3／左リヤタイヤ

以上で取付作業は完了です。
最後に、空気圧・タイヤ内温度のセンサーポジション信号をモニターが正しく表示しているかを確認して下さい。
（空気圧と温度表示の切替は、ファンクションボタンで切替えが出来ます）

※ 万が一モニターに数字が表示されない場合（データが受信出来ない場合）は、お手数ですがトラブルシューティングをご一読下さい。

■ モニター表示とワーニングの設定

TPCheckerは、出荷時に設定されている各種アラームの設定値を任意の数値に変更する事が出来ます。

※必ず車両側の空気圧設定値をご確認の上、TPCheckerの設定を行って下さい。
車両側の規定値と異なった数値を設定し、タイヤバーストや事故への保証は致しかねますのでご注意下さい。

■ ロープレッシャーワーニングの設定(280～380kPa)

1.リセットボタンを3秒長押すると、ロープレッシャーワーニングモードになります。
2.ロープレッシャーワーニングモードの初期設定値は、330kPaに設定されています。
Loが赤、数字が緑、kPaが青でそれぞれ表示されます。
3.ロープレッシャーワーニングの設定値は、280kPa～380kPaの間で設定することが出来ます。
ファンクションキーで空気圧を設定して下さい。

4.ご使用する車両によってとタイヤ空気圧は異なります。
お使いになる車両の空気圧を必ずご確認頂き、ロープレッシャーワーニングの設定値を正しく設定して下さい。
設定値が分からない場合は、自動車メーカー及び取り付けタイヤショップ等でアドバイスを受けてください。

※タイヤにパンク等が起きた場合の責任は、ユーザーの責任となりますので、必ず正しい空気圧数値で設定を行って下さい。

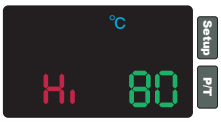
5.ロープレッシャーワーニングの設定が完了したらセットアップボタンを押して下さい。
システムはハイプレッシャーワーニングの設定モードへと移行します。

■ ハイプレッシャーワーニングの設定

■ ハイプレッシャーワーニングの設定(620～720kPa)

1.ロープレッシャーワーニングの設定の後、システムは自動的にハイプレッシャーワーニングの設定に移行します。
2.ハイプレッシャーワーニングの初期設定値は、620kPaに設定されています。
Loが赤、数字が緑、kPaが青でそれぞれ表示されます。
3.ファンクションキーで空気圧を設定して下さい。
表示が720kPaの状態でファンクションキー(P/T)を押すと520kPaへと戻ります。
4.ご使用する車両によってタイヤ空気圧は異なります。
お使いになる車両の空気圧を必ずご確認頂き、ハイプレッシャーワーニングの設定値を、正しく設定して下さい。
設定値が分からない場合は、自動車メーカー及び取り付けタイヤショップ等でアドバイスを受けてください。
※タイヤにパンク等が起きた場合の責任は、ユーザーの責任となりますので、必ず正しい空気圧数値で設定を行って下さい。
5.セットアップボタンを押してロープレッシャー・ハイプレッシャーワーニングの設定を終了します。終了すると自動的に通常のオペレーティングモードに戻ります。

■ ハイテンプワーニングの設定



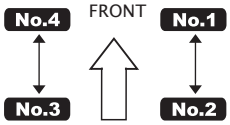
■ ハイテンプワーニングの設定(60～100℃)

1.ハイプレッシャーワーニング設定の後、システムは自動的にハイテンプワーニング設定に移行します。
2.ハイテンプワーニングの初期設定は80℃に設定されています。
Hiが赤、数字が緑、℃が青でそれぞれ表示されます
3.ファンクションボタンを押して数値を変更してください。
表示が100℃の状態でファンクションボタン(P/T)を押すと60℃へと戻ります。
4.ご使用する車両によってタイヤ空気圧は異なります。
お使いになる車両の空気圧を必ずご確認頂き、ハイテンプワーニングの設定値を、正しく設定して下さい。
設定値が分からない場合は、自動車メーカー及び取り付けタイヤショップ等でアドバイスを受けてください。
※タイヤにパンク等が起きた場合の責任は、ユーザーの責任となりますので、必ず正しい空気圧数値で設定を行って下さい。
5.セットアプボタンを押して温度ワーニンの設定を終了します。終了すると自動的に通常のオペレーティングモードに戻ります。

■ タイヤローテション及びリセット方法

TP Checkerには5パターンのタイヤローテーション方法（センサーリセット方法）が設定されています。
3通りのローテェイション方法と、ランダムローテェイション方法・センサーを交換した際の再セットアップ方法、
全部で5パターンのリセット方法機能を持っています。
用途に応じたローテーションパターンで、TP Checkerをご活用下さい。

■ Mode1　ローテーション方法①



◆ 手順①
ローテーションモード①は、左図の様な前後のローテーションモードを指します。
タイヤの入れ替えを、左図を参考に間違えないようにご注意下さい。
タイヤローテーション作業を行なった後に、以下手順でセンサーリセット作業
を行なって下さい。

◆ 手順②
セットアップボタンをを押しながら、ファンクションボタンを同時に15秒以上押
し続けて下さい。
ディスプレイ緑と赤に点滅をし、「ビー 」と音が鳴ります。

「ビー」と音がなった後モニターには緑色で1と表示されます。

◆ 手順③
緑色のLEDで、フロントの表示部分の数字「1と4」が表示され、赤色のLEDでリア
の表示部分に「1と4」の表示が出ます。
次に緑色のLEDでリアの表示部分に「3と2」の表示がされ、赤色のLEDでフロント
部分に「3と2」が表示されます。この表示が交互に表示されます。

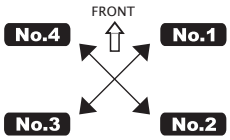
◆ 手順④
セットアップボタンを3秒間長押しすると「ビー」と音が鳴りセンサーポジションの
再認識が完了し、通常のオペレーティングモードへと戻ります。

＜注意＞
作業中に車両の電源を切ったり、エンジンを掛けたりしないでください。
モニターに電源が供給されなくなるとセンサーがのポジションが正しく認識されま
無い事があります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識で
きているかを確認してください。
もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。

■ タイヤローテション及びリセット方法

■ Mode2　ローテーション方法②



◆ 手順①
ローテーションモード②は、左図の様なクロスローテーションモードを指しています。タイヤの入れ替えを、左図を参考に間違えないようにご注意下さい。
タイヤローテーション作業を行なった後に、以下手順でセンサーリセット作業を行なって下さい。

◆ 手順②
セットアップボタンを押しながら、ファンクションボタンを同時に15秒以上押し続けて下さい。（押し続けている際にはLEDが緑色で点滅します）

「ビー」と音が鳴った後モニターには緑色で1と表示されます。

◆ 手順③
ローテーションモード①を認識すると、モニターの数字が「1」になります。
続けてファンクションボタンを押すと「ピッ」という音と共にモニターの数字が「2」に変わり、ローテーションモード②である事を表しています。

この画面を確認しましたら、タイヤローテーション作業を行ってください。
この際、モニター部分に左図のような数字が出ます。数字はセンサーナンバーを表し、緑の数字が現在のセンサーポジション、赤の数字がローテーション先のポジションを表しています。

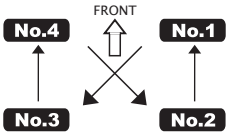
◆ 手順④
正しくローテーション作業が行われた事を確認し、リセットボタンを1秒間押し続けて「ピッ」という音が鳴り、通常モードに戻りましたら作業が終了です。

＜注意＞
作業中に車両の電源を切ったり、エンジンを掛けたりしないでください。
モニターに電源が供給されなくなるとセンサーがのポジションが正しく認識されま無い事があります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。
もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。

■ タイヤローテション及びリセット方法

■ Mode3　ローテーション方法③



◆ 手順①
ローテーションモード③は、左図の様なローテーションモードを指しています。
タイヤの入れ替えを、左図を参考に間違えないようにご注意下さい。
タイヤローテーション作業を行なった後に、以下手順でセンサーリセット作業を行なって下さい。

◆ 手順②
リセットボタンを押しながら、ファンクションボタンを同時に15秒以上押し続けて下さい。（押し続けている際にはLEDが緑色で点滅します）

「ビー」と音がなった後モニターには緑色で1と表示されます。

◆ 手順③
ローテーションモード①を認識すると、モニターの数字が「1」になります。
続けてファンクションボタンを押すと「ピッ」という音と共にモニターの数字が「2」に変わり、更にファンクションボタンをもう一度押しモニターに「3」を表示させれば、ローテーションモード③である事を表します。

この画面を確認しましたら、タイヤローテーション作業を行ってください。
この際、モニター部分に左図のような数字が出ます。数字はセンサーナンバーを表し、緑の数字が現在のセンサーポジション、赤の数字がローテーション先のポジションを表しています。

◆ 手順④
正しくローテーション作業が行われた事を確認し、リセットボタンを1秒間押し続けて「ピッ」という音が鳴り、通常モードに戻りましたら作業が終了です。

＜注意＞
作業中に車両の電源を切ったり、エンジンを掛けたりしないでください。
モニターに電源が供給されなくなるとセンサーがのポジションが正しく認識されま無い事があります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。
もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。

■ タイヤローテション及びリセット方法

■ Mode4　ランダムローテーション方法

◆ 手順①
ローテーションモード④は、ランダムにローテーションを行った際に使用するモードを指します。
タイヤローテーション作業を行なった後に、以下手順でセンサーリセット作業を行なって下さい。

◆ 手順②
リセットボタンを押しながら、ファンクションボタンを同時に15秒以上押し続けて下さい。（押し続けている際にはLEDが緑色で点滅します）

「ビー」と音がなった後モニターには緑色で1と表示されます。

◆ 手順③
ローテーションモード①を認識すると、モニターの数字が「1」になります。
続けてファンクションボタンを押すと「ピッ」という音と共にモニターの数字が「2」に変わり、更にファンクションボタンを2回押しモニターに「4」を表示させれば、ローテーションモード④である事を表します。

この画面を確認しましたら、タイヤローテーション作業を行ってください。
（センサーのリセットをする前に、タイヤローテーション作業を行って下さい）

◆ 手順④
正しくローテーション作業が行われた事を確認して下さい。
モニターに右フロント（1と表示されています）が表示されている事を確認し、タイヤ空気圧を現在設定されている、ロープレッシャーワーニング設定値以下まで抜いて下さい。

設定値より空気圧が下回りますと、センサーが感知し「ピッ」という音と共に、モニターの数字が次の画面へ進みます。
この画面になりましたら、空気を抜いたタイヤへ適正空気圧を充填して下さい。

◆ 手順⑤
右リヤ以降は、手順④の繰り返しになります。
左フロントの作業終わりますと、自動的に通常モードへ戻ります。

＜注意＞
作業中に車両の電源を切ったり、エンジンを掛けたりしないでください。
モニターに電源が供給されなくなるとセンサーがのポジションが正しく認識されま無い事があります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。
もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。

■ タイヤローテション及びリセット方法

■ Mode5　センサーを破損させて、1個だけセンサーを交換した場合

◆ 手順①
ローテーションモード⑤は、センサーが破損または電池切れ等で交換した場合に、このモードを使用します。
ホイールから、破損又は電池切れをしたセンサーを取り外し、リペアセンサーを取り付け、以下の手順に沿って正しく車両へ装着をして下さい。

◆ 手順②
リセットボタンを押しながら、ファンクションボタンを同時に15秒以上押し続けて下さい。（押し続けている際にはLEDが緑色で点滅します）

「ビー」と音がなった後モニターには緑色で1と表示されます。

◆ 手順③
ローテーションモード①を認識すると、モニターの数字が「1」になります。
続けてファンクションボタンを押すと「ピッ」という音と共にモニターの数字が「2」に変わり、更にファンクションボタンを3回押しモニターに「5」を表示させれば、ローテーションモード⑤である事を表します。

◆ 手順④
次にリセットボタンを押しモニターに「1」と表示され、センサーを交換したホイールの位置まで点灯箇所を進めます。

※本書は、左リヤのタイヤセンサーを交換した仮定で、インジケーターのポジションを合わせています。

◆ 手順⑤
ポジションを合わせましたら、センサーを交換したタイヤの空気圧をロープレッシャーワーニングの設定値以下まで抜き、「ピッ」という音とが鳴ればセンサーが感知した合図になります。

この合図を確認したら、空気を抜いたホイールへ適正空気圧を充填し、モニターが自動的に通常モードに戻ります。

＜注意＞
作業中に車両の電源を切ったり、エンジンを掛けたりしないでください。
モニターに電源が供給されなくなるとセンサーがのポジションが正しく認識されま無い事があります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。
もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。

ＮＯＴＩＣＥ（必ずお読み下さい）

[LT409-Model]

http://www.tp-checker.jp

■ 表記及び用語の説明

kPa タイヤ圧力単位	1Pascalは1平方メートル(m2)の面積につき1ニュートン(N)の力が作用する圧力
bar タイヤ圧力単位	1bar=100kPa
℃ セルシウス温度単位	
タイヤ加圧環境温度	気温25℃でメーカー指定の空気圧に設定することをお勧めします
モニター(Monitor)	無線電波受信回路、表示回路、警告用ブザーを内蔵
センサー(Sensor)	タイヤ内部に取付け、タイヤの圧力と温度をRF信号でモニターに送信します

■ システムの保証

本製品は取り付け日（本書記載の購入日より）から1年間のメーカー保証が付属されています。
保証期間中、取扱説明書・注意書きに従った正常な使用状態で不良・故障した場合には、本保証規定の記載内容に基づき、同等品への交換若しくは修理を致します。（但し、交換時に発生した工賃は対象外）
保証期間の認定は購入された際の領収書、又はj本書に取り付け日が明記され、販売店印のある製品保証カードに準じます。（購入日の記入若しくは販売店の記入が無いものは、原則として保証対象外とします）
保証期間の最終日が日曜・祝日の際は、その次の日を最終日とします。

■ 保証適応外(保証書をご提示いただきましても、次の場合は有料となります)
1. 取り付け日から保証期間が経過した又は保証期間を証明できない場合。
2. 取扱説明書に記載の使用方法または注意に反するお取扱に起因する故障もしくは損傷。
3. 火災、地震、水害、落雷、台風、塩害、その他天災地変、公害等の不可抗力による損傷、人為的破壊（擦り削り、ヒンジ割れ、破裂、衝撃など）、不注意（紛失、不当な保管）、分解、改造等による故障。
4. 弊社認可外の部品を用いたりお客様ご自身又は、第三者による設置、追加、改造、修理による損傷。
5. 定期的交換が必要とする消耗品。

■ 重要事項
1. 上記保証規定を書面、ホームページでの修正、説明、解釈の権利が弊社に帰属します。
2. 本製品のご購入、使用に起因する付随的、又は間接的損害及び本規定を反する行為による財産、人身の損害に対して当方では責任を負いかねます。
3. 本製品は車両のタイヤ空気圧・音頭を監視することを補助するシステムであり、お客様のタイヤの状況の点検、法規、車両メーカーの規定に基づいた定期点検を代替するものではありません。
4. 「エアーバルブ」「専用スクリュー」は消耗品であり、本システムの保証対象外となります。タイヤ交換、センサーの交換、再取付けの際、必ず新品の「エアーバルブ」「専用スクリュー」をご使用ください。
5. エア漏れ防止のため、毎年定期的に「エアバルブ」を点検、交換することを強くお勧めします。

◆ モニター電源を入れても表示が出ない	
電源ケーブルとモニターのソケット接触不良	電源ケーブルを一旦抜き、再度奥くまで差し込んでください
電源ケーブルとシガーソケットの接触不良	電源ケーブルを一旦抜き、再度奥くまで差し込んでください
電源ケーブル故障	電源ケーブルを交換し、製造元へ返送してください
モニター内部ヒューズ切れ	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元に返送してください
◆ モニター表示部の数字不完全又は点灯異常	
モニター内部回路故障	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元に返送してください。
◆ モニター電源ON後、全ての車輪からの信号を受信できず、全タイヤの表示位置に「E1」を表示される	
車内又は付近に電波障害や電波遮断が存在し、受信が妨害されています	車両を移動し、再受信を試みます
センサーとモニターのペアリングミス	モード2のローテーション設定方法でセンサーを再設定します
モニター内部のRF受信回路故障	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元に返送してください
◆ ある車輪（1輪若しくは2～4輪）から信号を受信できません。該当車輪の表示位置に「E2」が表示される	
車内又は付近に電波障害や電波遮断が存在し、受信が妨害されています	車内で電波を発するものを外します 車両を移動し、再受信を試してください
当車輪のセンサー設定ミス	モード3（単一センサー交換モード）の設定方法で再設定してください
該当車輪のセンサーが故障しています	センサーを交換後、モード3（単一センサー交換モード）の設定方法で再設定してください（交換したセンサーを製造元に返却して下さい）
◆ 設定ボタン又は「P/T」ボタン無反応	
モニターのボタン又は内部回路故障	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元に返送してください
◆ 圧力（温度）の数値表示位置が不正確	
タイヤの装着位置が不正確	タイヤを正しい位置に装着してください
センサーの装着位置が不正確	モード2のローテーション設定方法でセンサーを再設定します
◆ アラームが鳴らない	
モニター内部回路の故障	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元へ返送してください

◆ Warranty Policy

商品をお買い上げ頂いた日より１年間、取扱説明書に沿って製品が正しくお使い頂いたにも関わらず発生した製造欠陥には、商品の交換若しくは修理をさせて頂きます。

但し、下記のお買い上げ店様による「お買い上げ記録」が無い場合は保証の対象とはなりません。

■ お買い上げ記録	
取付日	年　　月　　日
販売店名	
住所	
電話	
ＦＡＸ	
製造番号(ID番号)	

※ TP Checkerは特定小電力工事設計認証取得済商品です。
※ 本製品は予告無く仕様変更を行う場合があります。
※ 販売店様は必ずお買い上げ記録に記入をお願い致します。

製 造 元

Orange Electronic CO.,LTD

2F,No.51,sec. 1, Yatan Rd., Tanzin Township Taichung County 427, Taiwan

Tel:886-4-2534-3636 Fax:886-4-2535-8995

発 売 元

株式会社 アッソ・インターナショナル　Mailto:call-me@tp-checker.jp

東京都新宿区片町６番地 合羽ビル１Ｆ　Tel:03-5919-1582 Fax03-5919-1583